

精

わたしを
かえす
ところ

舍

विहार

公開講座を振り返って

講師 高濱 浩子（画家）

25歳の時、元町商店街の自宅で大地震を経験しました。一瞬にして土壁が崩れ私を覆い、母は大きな声で、窓から出て隣の店の屋根に飛び乗るよう叫びました。母と毛布に包まり「南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏」死にたくないと初めて願いました。うつすら夜が明けると、どこからか煤が風に乗つて渡つて行きました。

それからひと月後、私は絵や音楽の仲間たちと「道ゆく人たちと楽しくなれる何かをしよ

う」と話し、路上で一輪の花を描きました。すると後ろから作業着のおじさんが声をかけてくれたのです。「なあ、おねえちゃん。わしな、絵とかわからんし美術館とか行つたことないし、ようわからんけど、でもな、そのおねえちゃんが描いた絵、家に持つて

帰りたいねん」と。瓦礫の街で、絵なんてお腹の足しにもならないのに。でもその時私は、絵は命のすぐそばにある気がしたのです。

今から四年前、大きな病院でトラウマに配慮したケアプログラムのアートを担当することになりました。今でも週一日、産科の

患者さんと共に絵を描いています。このプログラムは治療を目的としているわけではありません。絵を上手く描く教室でもなく、患者さんが安心して表現できる安

全な場であることを大事にしています。大体の方が絵は苦手とおっしゃいますが、少しずつ自分のペースで表現し、可視化された自分の心を眺め、思つたことを話してくれるたりします。結果として治療につながる事もあるようですが、私は患者さんに何も求めません。ただ一緒にいるだけです。

このたびビハーラの会の活動を伺い、講演前に西田様やスタッフの皆様とお話をさせていただきました。改めて「ただともにいるこ



公開講座で対談したビハーラ兵庫・西田代表と
講師・高濱先生(2022.6.24)

と」の大切さに気づきました。講演後開いたワークショップでは、皆さんの大好きな笑い声やユニークな心に出会いました。人と人の間には様々な関係がありますが、ただともに大地の上で風を感じながら一緒に空を見上げているような、そのような者でありたいと改めて思う会でした。感謝合掌

2022年11月23日、ビハーラ兵庫が長島愛生園を訪問しての研修会に、教務所長はじめ初参加の人も含め26名の参加者を得て実施されました。

前回、園を訪問したのは、4年前の第3連区ビハーラ合同研修会でした。それ以前は約20年余り前から、5月の降誕会・11月の報恩講の準備を兼ねて清掃交流会を、布教団十方会と協力して行つていまし。2019年春以降は新型

コロナ感染症等により自粛しきず、大変寂しい思いをしましたが、久しぶりに交流会を開くことができました。

当日はあいにくの雨で、収容棧橋・回春寮（収容所）・懲罰房舎である監房跡等は近くまで行つて見学できませんでしたが、その分歴史博物館でゆったり時間を取りハンセン病についてお話を伺い、「ハンセン病問題」と云われる、厳しい差別の

ビハーラ兵庫現地研修に参加して

高崎正英

現実を肌で感じ取ることができました。

その後、万靈山の納骨堂に参拝しました。ここには、3600名余りのご遺骨が納められておりますが、大半が故郷のお墓に分骨されていません。ここにも厳しい差別の現実があります。

そして、真宗会館に移動して真宗同朋会世話人代表 鈴木幹雄さんから、入所された時の様子や今日に至るまでの苦労話や楽しい想い出話を聞かせていただきました。質疑応答の時間もあり、大変有意義な交流会でした。

今日の愛生園では、入所者の平均年齢が88歳・在園者数100余名。「年々介護度が上

り園内交流も少なくなり寂しくなるばかりです。」と話されていたのを聞き、今後ビハーラ活動をどのようにすればいいか考える時だと強く感じました。



長島愛生園歴史館でハンセン病の由来や歴史について学ぶ参加者(2022.11.23)

ビハーラ兵庫の主な活動

- ・高齢者施設でのボランティア
- ・邑久光明園、長島愛生園での交流会
- ・緩和医療や福祉分野の研修会の開催 など

会 費

会員5千円・賛助会員3千円／年
研修会等のご案内を送付します。
ボランティア中の怪我などを補償する
県ボランティア保険に登録します。

ビハーラ兵庫賛助会員

賛助会員とは、ビハーラ活動に興味があり、『私も何かできることはないだろうか』とおもわれる方に必見の制度です。賛助会員になりますと研修会等の活動のお知らせが届きます。まずは知るところから始めましょう。賛助会員に加入いただけでも、団体にとって大きな助けになります。